

国家戦略特区ワーキンググループ ヒアリング（議事要旨）

（開催要領）

- 1 日時 令和6年2月29日（木）16:29～16:55
- 2 場所 永田町合同庁舎1階 第3共用会議室（オンライン会議）
- 3 出席

<WG委員>

- 座長 中川 雅之 日本大学経済学部教授
- 座長代理 落合 孝文 渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 プロトタイプ政策
研究所所長・シニアパートナー弁護士
- 委員 阿曾沼 元博 順天堂大学 客員教授、医療法人社団澁志会 社員・理事
- 委員 安念 潤司 中央大学法務研究科教授

<関係省庁>

- 西田 勇樹 金融庁総合政策局総合政策課サステナブルファイナンス
推進室長

<自治体等>

- 秋元 克広 札幌市長
- 町田 隆敏 札幌市副市長
- 小角 武嗣 札幌市まちづくり政策局長
- 中本 和弥 札幌市まちづくり政策局政策企画部企画課長

<事務局>

- 河村 直樹 内閣府地方創生推進事務局次長
- 安楽岡 武 内閣府地方創生推進事務局審議官
- 正田 聡 内閣府地方創生推進事務局参事官
- 田中 聡明 内閣府地方創生推進事務局参事官

（議事次第）

- 1 開会
- 2 議事 「金融・資産運用特区」に係る札幌市提案
- 3 閉会

○正田参事官 それでは、国家戦略特区ワーキンググループヒアリングを開始いたします。
本日の議題は「『金融・資産運用特区』に係る札幌市提案」ということで、札幌市、金融庁にオンラインで御出席いただいております。

本日の資料は、札幌市から御提出いただいております。公開予定でございます。本日の議事についても公開予定です。

進め方でございますけれども、まず、札幌市から10分程度で御説明をいただき、その後、委員の皆様方によります質疑、意見交換に移りたいと思います。

それでは、中川座長に議事進行をお願いいたします。

○中川座長 それでは、これから「『金融・資産運用特区』に係る札幌市提案」に関します国家戦略特区ワーキンググループヒアリングを始めたいと思います。

札幌市、本日は大変お待たせしまして申し訳ございません。

本日のヒアリングでは、札幌市から特区構想全体のコンセプトやビジネス、生活環境の整備等を中心に御説明いただき、議論していきたいと考えております。

それでは早速、札幌市のほうから御説明をお願いいたします。

○秋元市長 皆様、こんにちは。私、札幌市長の秋元克広でございます。

国家戦略特区ワーキングの委員の皆様方には、こういった貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございます。

私から概要をまず説明させていただきますので、よろしく願い申し上げます。

表紙をおめくりいただきまして、2ページでございます。北海道・札幌「GX金融・資産運用特区」の目指す姿ということでございます。

下から二つ目のポツでございますけれども、私たちは特区を活用しながら、国内随一のGXポテンシャルと世界でも類を見ない札幌のまちの魅力を生かし、GX産業の集積と金融機能の強化集積を両輪で進め、日本の再生可能エネルギーの供給基地、そして、世界中からGXに関する資金・人材・情報が集積をする、アジア・世界の金融センターを実現をしております。

4ページを御覧いただきます。

その推進体制といたしまして、昨年6月に関係省庁、メガバンク・地元金融機関、大学、経済界、エネルギー事業者等の産学官金21の機関から成りますGX金融コンソーシアム「Team Sapporo-Hokkaido」を設立いたしました。

続いて、7ページを御覧いただきたいと思います。

「Team Sapporo-Hokkaido」は、今後10年間で150兆円とも言われるGXの官民投資のうち、約40兆円の投資を呼び込むため、GX産業の集積に向けた8つのプロジェクトと、金融機能の強化集積等を図る6つの重点取組を両輪で回して、取組を加速させていきます。

続きまして、北海道・札幌のポテンシャルについて御紹介をさせていただきます。

8ページを御覧いただきます。

日本のGXをリードする北海道の8つのGXプロジェクトでございます。

まず、洋上風力でありますけれども、道内の5か所が着床式の有望区域、2か所が浮体式の準備区域に選定をされておりまして、整備に向けた取組が着実に進んでおります。

また、洋上風力等で製造されました再エネ電力を求めて次世代半導体工場やデータセン

ターが立地をするという動きも広がっております。さらに、電気を運ぶ、そして貯めるための海底直流送電、運搬船、蓄電池の導入拡大、さらにはSAF、水素、様々なGX投資が動き始めております。

続いて、11ページを御覧いただきます。

スタートアップを更なる段階へ進めるために、日本一のスタートアップのエコシステムを有する渋谷区と連携協定を締結いたしました。ここでイノベーションの更なる加速を図って、海外からの投資も呼び込んでまいります。

12ページを御覧ください。

北海道の多様性のある広い大地を活用して、AIに関する実証・実装促進地域を設定して、AIと8つのプロジェクト、AIと社会課題を掛け合わせた新しい価値を創造したいと考えております。

16ページを御覧ください。

札幌のまちの魅力は、都市と自然との調和、開拓スピリットにあると考えておりまして、六つの特色を掲げております。

「197万都市と自然、雪との共存」「水素を活用した新たな公共交通システムへの挑戦」「バックカントリースキーなど大自然と融合したアクティビティの数々」「夏のビアガーデンや雪まつりなど、まち全体で四季を楽しむ文化の創造」などであります。こうした札幌のまちの魅力が、産業集積、金融機能集積を後押しするものと考えてございます。

17ページを御覧ください。

こうした北海道・札幌のポテンシャルや魅力を背景に構築したものが、このたびの北海道・札幌「GX金融・資産運用特区」の構想であります。

特区の取組のポイントとして、上に四つ掲げております。

1点目が、GX産業の集積と金融機能の強化集積の相乗効果の発揮。

2点目が、GX事業情報や投資情報等を集約して、事業者と投資家をつなぐプラットフォームの構築。

3点目が、イノベーションを生み出すスタートアップやGX産業を支える人材育成の強化。

4点目が、AIに関する実証・実装促進地域の設定であります。

下の表では、国への御提案を左側に、地元の主体的な取組を右側に配して、取組を一覧に記載をしてございます。

基本的な考え方といたしましては、GX事業者や資産運用会社等の声をお聴きしながら、ビジネスしやすい環境づくりに向けた規制緩和等に果敢に取組みつつ、地元として取り組めることはスピード感を持って、前倒しで進めていきたいと考えております。

ここからは、具体的な国への提案について御説明をさせていただきます。

19ページから22ページにつきましては、金融機能の強化集積に向けた規制緩和等の提案でございます。

まず、19ページでありますけれども、海外投資家や金融機関等が投資をしやすい環境づ

くりとして、事業そのものの価値を担保化するGreen Mortgage制度の創設、銀行業高度化等会社における出資規制の緩和等を提案しております。

20ページであります。法人設立に向けた商業登記の手続を英語のみで完結する規制緩和の提案、続きまして21ページでございますが、上段におきまして、国際競争力向上に資するGX事業を行うスタートアップの出資者に対する税制優遇、下段は国の支援機関の一部機能の札幌移転を求めるものでございます。

22ページから25ページにつきましては、GX産業の集積に向けた規制緩和等の提案でございます。

まず、22ページでございます。圧縮水素の貯蔵量の上限の緩和、環境アセスにおける国・地域セントラル方式の拡大、洋上風力建設に係る外国船籍の利用に向けた規制緩和等でございます。

23ページであります。スタートアップの創出・育成に向けた六つの提案、そして24ページにおきましては、上段に外国人投資家向けの在留資格等の規制緩和、中段は国際競争力向上に資する設備投資を行う法人等への税制優遇等でございます。

24ページの下段につきましては、GX産業集積に向けた国の支援等を求めるもの、次の25ページでは、AIに関する実証・実装促進地域を念頭として、上段は自動運転の実装に向けた社会的ルールの整備、下段につきましてはデジタル行財政改革会議の中に新たにAI北海道会議を設置することを求めるものでございます。

26ページからは、地元の主体的な取組でございます。

26ページの上段でありますけれども、住民登録・印鑑登録等の英語対応に係る規制緩和、下段につきましては、金融機能集積やGX産業集積に向けた市税の税制優遇を記載してございます。

続いての27ページから32ページにつきましては、金融機能の強化集積に向けて、ビジネスや生活環境の整備、誘致活動・情報発信の強化、スタートアップ・人材育成など、札幌市が率先して取り組む事業について、行程表で整理をしたものでございます。

主なものとしたしましては、27ページでは、ビジネス・暮らしの英語ワンストップ相談窓口の開設でありますとか、丘珠空港のビジネスジェット利用促進、29ページでは、インターナショナルスクールの誘致やキャッシュレス化の促進、31ページでありますけれども、海外資産運用会社やGX事業を行う企業の誘致強化、32ページには、GX情報プラットフォームの構築、国際会議・イベント等による情報発信の強化などを掲げており、札幌市全庁挙げて取り組んでまいりたいと、このように考えております。

最後に、38ページを御覧いただきたいと思っております。特区の推進体制でございます。

関係省庁、メガバンク・地元金融機関、大学、経済界、エネルギー事業者等の21の機関で構成をされますGX金融コンソーシアム「Team Sapporo-Hokkaido」、これを中核といたしまして、北海道・札幌「GX金融・資産運用特区」を活用した様々な取組に、地域一丸となって果敢に挑戦をし、アジア・世界の金融センターの実現に向けて取り組んでまいります。

私からの説明は以上であります。よろしくお願ひいたします。

○中川座長 札幌市長、どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆様から御質問、御意見をお伺いできればと思います。

落合委員、お願いします。

○落合座長代理 ありがとうございます。

非常に魅力的な提案と言いますか、特にGXに関して着目してというところは、ほかの自治体でなかなか見られない提案でもありますし、フルにポテンシャルを生かしてという意味で非常に素晴らしい提案をいただいていると感じております。まず、取りまとめに感謝申し上げたいと思います。

その上で、さらにこれから特区に関して取組を進めていただくに当たって、どういう形で進めていくと良いか、いくつかお伺いしたいところがございます。一つが、まず特区指定に関しては、継続的に色々な提案を具体化した形で御提案をいただくということが非常に多くあります。以前のデジタル田園健康特区やスーパーシティの場合もそういう形で実施していただいております。そのときに見てございますと、各自治体で分野ごとに規制の特定措置を検討するような体制を整備されているかと思っておりますが、この点については今後どういうふうにしていかれるかが一つ目です。

二つ目が、国際金融都市にかかってくるかと思っておりますので、そういった中で海外の方々から意見を聴いたりだとか、メンバーに取り入れていくような取組については、どう進められていくかが二つ目です。

三つ目としまして、特にキャッシュレス化の促進とか、インターナショナルスクールの誘致であったりとか、案内サインの点、これらについても非常に重要な点だと思っております。公共交通機関に関する部分などでキャッシュレスなども示していただいていると思いますが、生活全般として総合的に取り組んでいくことも重要ではないかと思ひまして、そういった点について今後、計画をどう深められていくのかです。

以上三点、お伺いできればと思います。

○中川座長 それでは、札幌市、お願ひいたします。

○秋元市長 ありがとうございます。

それでは、私から少しお答えをさせていただきます。

1点目の今後の継続的な取組ということでございますが、今、委員から御指摘をいただきましたように、GXに関する取組というのは、北海道のポテンシャルを生かして、先ほど御説明させていただきました具体的なプロジェクトを動かして進めていくということになります。したがって、例えば色々な実証実験あるいは実装していくためのサプライチェーンを作っていくに当たっての課題は次々と現実的に出てくると思ひます。そういう意味では、具体化をしてくる、そういった中で、様々な規制あるいは制度の改正というようなことについて、継続して御提案をさせていただき、あるいは協議をさせていただきたいと、このように思っております。

それから、国際金融との関係で申し上げますと、海外の投資家あるいはそういった関係者の皆様の声を入れていくという状況になります。「Team Sapporo-Hokkaido」の中で、先ほど申し上げましたように、様々な機関から色々な検討をさせていただくチームを作ってやっております。先ほどのプロジェクトも含めてですけれども、具体的にこれを動かしていくための人員体制を逐次強化をしていきます。

その中で、国際金融に明るい、例えばメガバンクからの人材を協力いただくとか、それから実際に海外投資をされている方々からの御意見、こういったものも人材の中に取り込めるものについては取り組んでいきたいと思っております。

それから、生活全般の取組について、今後、実際の国際化と言いますか、様々な海外人材を受け入れていく環境が非常に重要でありますので、札幌市としても、この特区の指定を機会に、全庁的に様々な取組、海外からの方々が受け入れられる環境づくり、このことを進めていきたいと、このように思っております。

以上です。

○落合座長代理 ありがとうございます。いずれも前向きに取組を進めていかれるということで、さらに、それぞれ具体的な進行につながっていくことを大変期待してございます。また、ほかの金融関連の提案をされている都市と違った特色があるように思っていますので、是非それを生かしていただきたいなと思っております。

一方で、外国人であったり、海外の企業の方をなるべくメンバーに取り込んでいただくとか、GXに関する会議体だけでなく、ほかの生活関係のところも様々あるかと思えます。そういうところを議論するような、それぞれ分野ごとに掘っていくと結構課題がなかなか難しいこともあったりしますので、是非各分野の専門家も集めていただいて、より充実化させていただければと思います。

以上です。どうもありがとうございました。

○秋元市長 ありがとうございます。

○中川座長 ありがとうございます。

それでは、ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。

それでは、私のほうから1点御質問させていただければと思います。

札幌市におきましては、金融・資産運用特区だけではなくて、国家戦略特区としての指定を念頭に置いて、GX関係の産業ですとか、あるいは生活回りの規制緩和を御提案いただいているものと理解しておりますけれども、そのときにGX産業集積に向けた国の支援というタイトルで、8つのGXプロジェクト関係で、例えば圧縮水素の貯蔵量上限に関します規制緩和とか、洋上風力に関します排他的経済水域に関する規制緩和とか、五つの規制緩和を御提案いただいているわけですけれども、今日の御説明は基本的に市長のほうから全体のコンセプトあるいはそのエコシステムに関して御説明いただいたということで、素晴らしいプレゼンだったと思うのですが、我々が規制緩和をこれから考えていくに当たりまして、例えばこの五つの規制緩和措置に関して、それぞれプロジェクトとか何らかの経済

活動の現実的なものはぶら下がっているのか、どのようなものがこの規制緩和によって具体的に実現可能になるのかという部分につきまして、おそらく詳細にお伺いするような形になると思いますけれども、その部分については、今日御説明いただく必要はありませんが、このそれぞれの規制緩和措置につきましては、具体的なフィージブルな何らかの経済活動がぶら下がっているものだと考えればよろしいでしょうか。

○秋元市長 是非委員の皆様方に御理解をいただきたい点が一つございます。と申しますのは、これまでの色々な特区の指定に関しましては、既に様々な経済活動などがあって、そういった中で障害となっている規制への緩和ということをお願いしてきているものがあったと認識をしております。

今回、私どもの金融・資産運用特区という形の中での特区申請と、先ほど委員におっしゃっていただきました国家戦略特区の指定を札幌は受けておりませんので、それに関するような内容についても今回盛り込ませていただいております。

特にGXに関しましては、技術的なものとか現実的なサプライチェーンの構築には実装までにもうしばらく色々なプロセスが必要になってくるわけだと思います。そういう中で、今、具体的なビジネスプロセス、サプライチェーンまで行っていないものもありますので、これを逐次、具体的なものはこれから出てくるものもあるということをまず御理解をいただきたいと思いますが、その上で、いくつか今、委員にお話をいただいた内容について、今お話ができる事柄について担当者のほうから説明を少しさせたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○中本課長 札幌市の企画課の中本と申します。

御質問ありがとうございます。

具体的にはまた別な場で協議ということになるかと思いますが、既に関係省庁の方とも個別の協議を始めさせていただいております。水素の貯蔵量の上限ということであれば、具体には商業施設とかでの利用を想定しておりますけれども、今の規制では毎日入れ替えなければならないというような、実用上、現実的でないものもありますので、なかなか需要自体も見い出せないというような障害が生じているということもございますので、その辺は個別具体的にまた相談をさせていただきたいと思っています。

一方で、先ほど秋元市長からもありましたけれども、このGXの取組はこれから動き始めるもの、あるいは新しい技術が見い出されるものもたくさんあると思いますし、北海道・札幌に金融機能を集積していくというのも、まさにこれからの動きになります。今までの特区とはちょっと違う手の挙げ方をさせていただいているかもしれませんが、これから起こり得ることのボトルネックをあらかじめ取り除いておいて、それを国際社会への呼び水にしていきたいと。そこで、強固な産業基盤を北海道・札幌の中に作っていききたいと、そのような思いで今回手を挙げさせていただいたものでありますので、引き続きその辺を御協議させていただけますと、色々御指導いただけますと幸いに存じます。

よろしくお願いたします。

○中川座長 分かりました。ありがとうございます。

市長、それから担当者からの今の状況、それから今後の見込みにつきまして御説明いただいたことにつきまして、御了解申し上げます。ありがとうございます。

ほかの委員の皆様方、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

本日は、札幌市の全体コンセプトやビジネス、生活環境の整備等を中心に御議論をいただきましたが、今後改めてGX部分などを中心に議論する場を設けるほか、個々の規制改革提案につきまして、関係省庁や関連する自治体なども交えて議論を進めていきたいと思っております。札幌市におかれましては、本日の議論も踏まえて御準備いただきますよう、引き続き御協力をお願いしたいと思います。

それでは、関係者の皆様、本日はどうもありがとうございました。